津田昇平教話　第二十一話

令和三年一月二十一日　朝の教話

おかげを受けた時の心を忘れぬように、日に日に心を改めてご信心せねばならぬのぞ。

おはようございます。令和三年一月二十一日をお迎えさせて頂くことができました。

昨日、一昨日と、主に教祖様の「信心のはじめを忘れなよ」というご理解を一緒に深めさせて頂いてまいりました。「信心しておかげを頂きましたら、信心が強くならんといかん」と、二代金光様も仰っているわけですけれども、残念ながら、信心しておかげを頂きましたら、信心が落ちてしまう人がやっぱり多いんですよね。本当に信心して、根っこから生まれ変わったんであれば、同じ病になることはないと思うんですよね。ないんですよ。けれども、付け焼き刃であったりすると、その時はうまくいったようでも、根っこが変わっているわけではないんですよね。だ

からすぐに元に戻ってしまう。で、元に戻る。どういう自分に戻るのかというと、難儀だった頃の自分という人間に戻ってしまうんです。それはただ難儀になるというんではなくて、難儀になるような自分、難儀を生み出してしまうような生き方、心、性根の自分であるということです。そういう自分に戻ってしまうということなんですね。

まあそうならないように必死になって信心して、神様にお縋りして、神様にほれ込んで信心した。そしておかげを頂くことができた。おかげを頂くことができたということは、おかげを頂けるような生き方、信心が、その時できていたはずなんですよ。でないと、おかげ頂けませんからね。

その頂いていた神様のおかげを、頂いていたような自分を見失わないように、自分が自分を忘れないように。苦しくて、しんどかった時の自分、つまり難儀にならざるを得ないような、そういう心、生き方、性根の自分を忘れないように。そして、信心しておかげを頂いて、本当に助けて頂いてありがたい。そういう、おかげを頂いて今ありがたいという、おかげを頂いてありがたいと言えるような、そういう心、生き方、性根、つまり信心ができるような自分ということ。それを忘れないように。

「自分が自分を忘れないように」というのは、難儀になるような自分を忘れないように。難儀を生み出す自分を忘れないように。もう一つは、おかげを頂いて今、ありがたいということ、それを忘れないように。お

かげを頂けるような生き方、信心を忘れないように、ということですね。それを大事にしてもらいたい、と教祖様は仰った。

教祖様のご理解にですね、こういうものがあるんですよね。ある人がですね、こういうふうにしてお届けをされた。

「世には強欲非道な人間でも不思議におかげをいただくことがありますが、あれはどういうものでございましょうか」

【理Ⅲ　尋求教語録　一八五より抜粋】

と、金光様にお伺いをなさった。

すると、金光様はこのように仰った。

「いかに性根（しょうね）の悪い人間でも、一心にその時だけ改まって信心しても、一時（いっとき）はおかげを受けるものじゃ。ちょうど、やせ地に肥（ひ）をすれば一時はできるようなもので、長続きはせぬわい。それじゃから、おかげを受けた時の心を忘れぬように、日に日に心を改めてご信心せねばならぬのぞ」

【同】

と仰ったんですね。

いかに性根の悪い人間でも一心に、その時だけですけど、その時だけでも一心に改まって信心したら、一時のおかげは受けるものや。つまり、その時、「一心に」って書いてますからね。一心にっていうことですから、本当に混じりっ気なく、正真正銘（しょうしんしょうめい）の本当の本気の願いとして、その時は、その時だけですけど、その時だけ心が改まったんでしょうね。でもその瞬間は、おかげが頂けるような心になったもんですから、「一時はおかげを受けるものじゃ」。で、これを例えてらっしゃるんですよね。

教祖様は農家で、農民でいらっしゃいましたから、だから農業に例え

て仰って下さった。それが「やせ地に肥をすれば」、やせた土地に肥やしですよね。「肥をすれば、一時はできるようなものだ。でも、長続きはせぬわい」と仰るんですね。

まあ、そらそうですよね。やせ地というのは、農作物を育て、育むような力が土地にはないということです。それほどの栄養分はこもってないんですよね。宿してない。でも、肥料をあげたらその時だけは、一時はできる、と書いてある。でも一時はできるというのも、土地のおかげではなくて、肥のおかげなんですね。肥やしのおかげなんです。その肥やしから農作物が栄養を摂って、そしてその時だけ成長する。

でもこれ、土地は痩(や)せてるんですよ。その痩せた土地が変わってるわ

けじゃないので、一時育つのは、肥料というものを吸い取って、食べて吸収して成長するんであって、その肥がなくなったらどうなるのかと言うと、ただのやせ地ですから、そうすると長続きということは、やっぱりしないわけです。

で、人間も同じことやということを仰っているんですよね。その時だけは、一心に本気で改まったら、その時だけは、おかげを頂けるような心になるから、おかげは頂ける。ところが、長続きはしないってことを仰る。「それじゃから、おかげを受けた時の心を忘れぬように」、ここ大事ですよ。

「おかげを受けた時の心を忘れぬように、日に日に心を
改めてご信心せねばならぬのぞ」

【同】

こう仰ってるんです。おかげを受けた時の心を忘れぬように。これ、この二日三日、私がずーっと、繰り返し繰り返し申し上げてることやと思います。これ、「信心のはじめを忘れなよ」ということと、全く同じでしょう。

信心のはじめっていうのは、ただただほんとに苦しんで、どうにもならん、もう救いようのない自分であったものが、ただ救いを求めて神様、

金光大神様に縋(すが)って、一心に願い、一心にお詫(わ)びし、一心にお礼を申し上げて、そしておかげを頂けるような心、器(うつわ)、性根(しょうね)、生き方、信心がその時はできてたんですよ。できたから、おかげは頂けたんです。一時でもね。でも、その頂いた一時はあくまで一時であって、ずーっと続くような、おかげというわけじゃないんです。「あっ、これでもうおかげを頂いた。これでもう大丈夫。万事ＯＫ」っちゅうわけにはいかんわけですよね、これ。

例えば「家買いたいな」と。「庭付きの一軒家欲しいなぁ」と、ある方が思ったとしましょう。じゃあ、どれぐらいですかね、三千万か四千万

か、この辺りでするんですかね。それで銀行にお金を借りて、借金して、不動産屋さんに支払ったと。じゃあ、名義も変わった。「これで晴れて家を買うことができた」って、まあ言いますよ。家を買いました。でもね、よう考えてみたらね、家買った、自分の物になったなんて、これ言えますかね？　これ、借金してるわけでしょう。とりあえずっていう感じで、あくまで一時（いっとき）は、とりあえず今のところは、あなたの名義ではあるものの、借金めっちゃ残ってますよね。

で、あなた、もし支払い滞（とどこお）ったらどうします？　何千万も。じゃあ支払いできないんやったら、その家、売ってでもいいから、ちゃんと返して下さいよ。貸した物は、ちゃーんと耳揃（そろ）えて返して下さいよ。利子も

付けてね。ちゃんと返して下さいよ。そらぁ銀行さんは、しっかりと持っていきますよ。それがお仕事ですからね。そうするとね。ローンだって二十年とか三十年とか、皆さん組むわけですよ。

そしたらまあ、「これ僕の家や」「私の家や」って言うてるけれども、本当の意味で、これが自分の土地と建物であるなんていうふうにして、はっきり言い切れるには、全部ローンを完済してはじめて言えることであって、調子良く三年五年は支払いができても、まさかのことが起きて、収入が入らなくなって、返済も滞った。こうなったらもう、そこに住むにも、住みたくても、住めんようになりますよ。

じゃ、住めんようになったらどうします？　売りますよ。「いや、僕の

家やから、ここにずっと住んでていい」っちゅうわけにいかないんですよ、実際には。現実問題として、支払うことができないんであれば、建物も土地も売って、それで返済に充(あ)てるしかしょうがないんです。

つまり、その人の家と言うてるようでもそれ、あくまでも一時の話なんです。これと同じことですね。やせ地に肥をすれば、一時はできるようなものだ。そうなんですよ。ローンを組んで買って、自分の家。これ一時なんです。今だけであって、二十年後、三十年後もあなたのものであるなんてこと、保証はないんですよ。これね。長続きするかどうか分からんわけです。

それじゃから、おかげを頂いた時のような心、神様に一心に縋(すが)って、

おかげを頂けるような、そういう心を忘れないようにしなくてはいけない。で、そのためにですよ。おかげを頂いたような心、生き方、性根を忘れないためにどうしたらいいのか。

教祖様は、こう仰る。「日に日に心を改めてご信心せねばならん」と。これ、おもしろいですね。日に日に心を改めていきなさい。おかげを頂いた時の受けた時の心を忘れないためには、日に日に心を改めなさいと仰るんです。これ裏返したらね、人間の心は日に日に心はちょっとずつずれていくし、穢(けが)れていくものなんや、と。

だから心と体の掃除を、毎日毎日、日に日に新たにさせてもらってな

いと、心も生き方も性根（しょうね）も穢れて、おかげを頂けるような、頂き続けるような心ではなくなって、おかげを落とすような、前の自分のような心になってしまいますよ……ってことを仰っているんです。

怖いですよ、これ。でも実際その通りですね。だからおかげを受けた時の心を忘れないように。信心のはじめを忘れないように。日に日に、毎日毎日、心新たに。自分の心は、日に日にずれていくもんなんやというふうにして、考えてた方がいいんでしょうね。だからこそ日に日に心を改めて、信心せんといかん。

じゃ、日に日に心を改めるって、どういうことですか。これは、これまで苦しかったこと、今おかげ頂いてありがたいこと。それを忘れないよ

うに。どうやっておかげ頂いて来たんかな。苦しんでる時は、どんな生き方、心やったんかな。そこを対比せんといけませんね。おかげを頂けなかった自分と、おかげを頂けるような自分と。絶対、違うはずなんです。正反対なはずなんです、本当は。

なんとなくおかげを頂いたってことは、ないんです。おかげを頂けるのは、おかげを頂けるような器ができた時なんですから。ってことは、頂けないような時の自分も忘れちゃいけない。そして、おかげを頂いた時の自分の信心も忘れない。それを意識しながら、どっちも意識しながら。でも自分の心って、生きてるということは、ただ生きてるだけでも知らず知らずでも、そんな意識しなくっても、ずれてしまったり、穢れ

たり歪(ゆが)んだりしてしまうものやからこそ、毎日毎日、心を改めて信心させて頂かないといけない、ということを教祖様は仰っている。

これちょうど、三代金光様が、

何十年つとめましても、油断がなりません。日々(にちにち)が新(さら)でございます

【『一心　金光攝胤(せったね)の教えとその時代』二一二頁参照】

というふうにして、有名なお言葉がございますね。「何十年つとめましても」、ずーっと御神勤(ごしんきん)下さって、もう氏子(うじこ)からは生神様とまで言われた。

その三代金光様が、「何十年つとめましても、油断がなりません」。油断がならないとは、誰が油断がならないかと言ったら、自分という人間なんです。自分という人間が、油断がならん。だから「日々(にちにち)が新(さら)」。さらというのは、まっさら、心新たにということです。

毎日毎日、心新たに信心のお稽古(けいこ)に励ませて頂く。自分の心というのは油断がならんから、毎日毎日、自分の心は正しいかなぁ、おかしな方向へ行ってへんかなぁ、それをいつも心がけて、チェックしていくということ。それがものすごく大事なんだよということ。

「一時(いっとき)のおかげを頂いて、終わったらいかんよ」と。これまで、苦しかったことと、今おかげ頂いてありがたいことと。そこをよう見てごらん。

苦しかった時は苦しかったような生き方、心になってたはずやし、おかげを頂いた時は、頂けるような生き方、心、信心になってたはずやから、それをようよう忘れんようにして、そして、今頂いている、せっかく下さったおかげを落とさんように、神様にお返ししないように、本当の意味で改まっていく。性根（しょうね）が変わっていく。性根を洗っていく。それは、三年、五年、十年はかかる、というふうにしてね、教祖様は仰っておられますけども。そのくらいの年月をかけて、ほんとに根っこの根っこから生まれ変わらして頂いていく。生きながらにして生まれ変わらせて頂く。そういうおかげを頂いてもらいたいっていうことを、神様は願って下さるし、教祖様も願って下さる。また、私も尼崎教会の広前（ひろまえ）の守（もり）として、

金光大神取次者（こんこうだいじんとりつぎしゃ）として、それを本当に願わせて頂いております。

信心のはじめを忘れなよ。おかげを受けた時の心を忘れないように、忘れぬように、日に日に心改めて、ご信心せねばならん。こういう教祖様のみ教えを頂いて、このみ教えを今日一日、心にかけさせて頂いて、わが身わが一家を練習帳にして、信心のお稽古をさせて頂きたいと、そのように思わせて頂いております。

今このお話を聞いていらっしゃる方々、皆、信心をさせて頂いて、おかげを頂いてこられた方ばっかりやと思います。信心が落ちてしまったり、油断してせっかく頂いたおかげをお返しすることがないように、ま

あ私も含めてですね。全くもって油断がなりませんので、共々に、自分自身の胸に手を当てて、自分自身を見つめて。そのために参拝、御祈念（ごきねん）、御取次（おんとりつぎ）がありますからね。自分一人では、自己チェックじゃ甘いんですよ。やっぱりね。車の点検でも自分でチェックすることは大事です。でもやっぱり時々、車検に出さんとあかんようなもんでね。やっぱりプロに見て頂く。チェックしてもらうっていうのは大事ですね。

ピアノを習うのでもそう。バレエを習うのでもそう。自分なりは自分なりで大事です。けれども、やっぱり時々、週一ぺんでも、できることなら週に何回かでも、見て頂く、チェックして頂く。近い人やったら足繁（あしげ）く通わして頂いてね。そうやって、自分の信心を見つめさせて頂く。改

まらせて頂く。そういう学校に通わせて頂いているわけですから、しっかりと活用しながら、また教えて頂いてきたこと、今こうして私がお話していることも、大切な教えですから。それを忘れないようにしながら、今日一日を丁寧（ていねい）に過ごして頂きたいなぁと思います。どうぞおかげを頂いて下さい。

よくお参りでございました。

津田昇平教話　第二十一話

令和三年一月二十一日　朝の教話

令和五年三月二十一日　初版発行

発行所　金光教尼崎教会

〒六六〇―〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三―七―五